

伝統構法・石場建てで住宅

耐震シミュレーションを



伝統構法、石場建てによる木造住宅が、ウォールスタッフによる耐震シミュレーションを実施して建設された。伝統技術を革新のシミュレーション技術で評価する取り組みとして注目される。

頃、西岡常一
棟梁の本を
読み、日本
の気候・風
土に合った
石場建てで
建てたいと
思つてい

には問題ないが、現行法への適合が大きな課題と考え、悟工房（同鎌倉市、山中信悟社長）に相談した。悟工房は伝統構法に対応し

何が一番苦労したか
といえば「ヨイトマ
ケ」と木村社長。石場
建てをする束石を配置
する地盤作りのため、
重い木材を大勢の人が
始めた。

て行つた（土壁塗りも
含めて）。地盤をパワ
ーショベルで掘つてぐ
の石をへり、ヨイ、マ
ミシミ使い、伝統構
法の接手を探
用。梁は渡り
額、大黒柱は7寸角の
設計だったが、丸太を
使つた。木村社長は
「上棟まで施工とは愚

をしてみたいと考え、山中社長に話した。ウオールスタッフによる耐震システムによる詳しいアルキテック（東京都）の臨田健裕社長と相談して「アレル牛

山中社長は「適切、確認機関からは、継続的な伝統構法の建築を奨励されている。せめて作り始めた。

木村社長は、技術的
ネットで調べて至巧舎
(神奈川県足柄下郡、
木村真一郎社長)に問
い合わせた。「石場建
てができる」と快諾を
もらい、話は進んでい
く。

た限界耐力計算や鉄骨
市の耐震改修などの仕
事に取り組んだ経験が
あり、日本建築センタ
ーと神奈川県建築安全
協会に連絡。適合性判
定と建築確認について
申請を受け付けてもら
えるよう確認)、作業

A black and white photograph showing three individuals seated around a table, focused on reviewing documents. One person on the left wears a cap and glasses, leaning forward with their hands near their face. The person in the center is partially visible, also looking down at the papers. The person on the right wears glasses and a mask, looking intently at a document they are holding. A small coffee cup sits on the table between them.

レーション結果を説明した
の天然乾燥を行なう製材工場
から調達した。柱・土台
は檜、梁は杉
・松。4寸
角、5寸角、
7寸角など

木村社長は、ふとウ
オールスタッフによる
耐震システムによる
行い内外真壁現し
でキッチン周りの梁上
もしつくいを施工。玄
関引き戸には両戸を設
けるなどの措置も取つ
た。

ーション結果を報告した。耐震性能に問題がないことを、動画をしながら説明した。



何が一番苦労したかといえば「ヨイトマケ」と木村社長。石場建てをする東石を配置する地盤作りのため、重い木材を大勢の人が力を合わせて縄でつり上げ、落とし、固める作業だ。これを10人（引き手は9人）で、土日を使い3カ月間にわたって実施した。

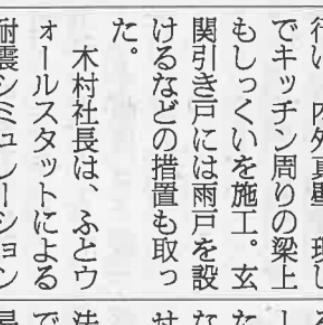
施主の知人・友人らが延べ250人参加し

て行った（土壁塗りも含めて）。地盤をパワーショベルで掘つてぐり石を入れ、ヨイトマケで突く。場所によつては1・2筋も突き固めたという。大きな音が響き、町役場や警察などにも相談しながら作業を進めた。

ミシ使い、伝統構
耐震法の接手を探
用。梁は渡り
額、大黒柱は7寸角の
設計だったが、丸太を使
った。木村社長は
「上棟まで施主には隠
しておこうと思つた
が、刻み場を見られて
はれてしまった」とい
う。

をしてみたいと考え、山中社長に話した。ウオールスタッフによる耐震シミュレーションに詳しいアルキテック（東京都）の脇田健裕社長に相談し「アルキテック V-SAH M」によるシミュレーションを実施。告示波、阪神大震災のJMA神戸波、東日本大震災の地震波などを使った。取材日に木村社長、山中社長、脇田社長がそ

を導入し、土塗壁の土作り始めた。
山中社長は「適判、
確認機関からは、継続的な伝統構法の建築を
期待されている。せつ



ーション結果を報告した。耐震性能に問題がないことを、動画をしながら説明した。